

パソコン通信



創刊号

定価 **580** yen

特集

パソコン通信でデータベースを利用する

パソコンやワープロをネットワークにつなぐと、そこはもう情報の玉手箱。オンラインデータベースを利用して、いまあなたが欲しい情報を瞬時に入手することができる。この便利なデータベースにはどんなものがあるのか、その使い勝手、利用料金、蓄積情報内容など、オンラインデータベースを徹底的に紹介する。

入門「画像通信」

パソコン通信で絵や写真をやりとりする「画像通信」が人気を集めている。画像通信でなにができるのか、画像通信をするにはなにが必要なのか、画像通信の入門から実践までを3回にわたって連載する。

パソコン通信ハード選び

ワープロ編

知的オフィスの
すすめの

連載

創刊記念 特別プレゼント

集中企画

海外ネットへアクセスしよう

いま、海外のパソコン通信ネットワークに熱い視線が寄せられている。アメリカを代表する各ネットワークにはどのようなようにすればつながるのか。準備するもの、利用料金、英語の問題など、海外ネットワークを利用するための入門講座。

巻末/パソコン通信番組表

BOARD INDEX

あなたの興味のあるボードを素早く見つけることのできる
便利なインデックスブック。



April 1989

人気PDSレポート

PDS REVIEW

dBASE IIIを高速化するコンパイラ(デモ版) アーカイバ(ファイル圧縮)を簡単に行なう
「CLIPPER」 「ARCMASTER」

MS-DOSのDIRコマンドを カラー化して使いやすくなる「D」「DIR MAGIC」
ハードディスクユーザー必携のファイル管理

日本語でも使える英文ワープロソフト

「GALAXY」

BOARD HUNTING

人気ボードハンティング

料理フォーラム 大自然&動植物 Books コンピュータで、音楽を
(NIFTY-Serve) (PC-VAN) (PC-VAN) (マスターネット)

ボードハンティング

Board hunting

ネットワークは生き物である。なかでも、コミュニケーションを中心としたSIGやフォーラムでは、毎日のように新しい話題が生まれ、活発なメッセージの交換が行われている。いま注目のボードをウォッチング、熱いシーンを誌上で再現する。

大自然&動植物

(PC-VAN)

料理フォーラム

(NIFTY-Serve)

コンピュータで、音楽を

(マスターネット)

Books

(PC-VAN)

“自然”を感じ、考える ナチュラル100%の 話題でいっぱい

SIG 大自然&動植物 PC-VAN

自然と人間の関係を、真剣に考えてみたいという人。また、そういう議論はともかく、自然に少しでも触れ、豊かさ楽しさを実感したいという人。自然とのふれあいをテーマにコミュニケーションするこのSIGは、そのどちらの思いにも応えてくれるだろう。

都会のサラリーマンは、コンクリートでできたマンションや団地から、オフィス街のビルへ通勤する。その周りには、とってつけたように、自然を模した緑の植え込みがある。そんなちっぽけな緑でも、都会人には貴重な“自然”…。都市に住む人間の自然への憧れは、誰もが納得するところだろう。一方、豊かな緑に囲まれた地方の人たちが自然に無関心かというところはない。田んぼの畦道にツクシを見つければ、ついしゃがみこんで見入ってしまう。

自然は、私たちにとって、とにかく“貴重な何か”を与えてくれる、“なくてはならないもの”なのだ。しかし、緑豊かであるはずの地方でさえも、いま、自然破壊は着々と進んでいる。破壊しているのも、それを嘆いているのも、人間だ。

「大自然&動植物」は、こうした時代的な背景のなかで、そのタイトルどおり、自然をテーマに開設された。昨年8月のスタートで、つい最近、ボードの再編も行っている。どちらかといえば新しいSIGであるわけだが、メッセージは次々とアップされている。内容も、楽しいもの、役に立つもの、そして真剣なもの、豊かだ。PC-VANに集まる現代人の、自然に対する関心の深さが示されているとを感じる。

「自然とふれあう」というテーマはやや漠然としているが、

具体的には、次の5つのボードに分かれている。

- 1) 自然の森/FREE
- 2) 風の谷住民会議
- 3) ダーウィン図書館
- 4) 大自然絵巻
- 5) バードウォッチング

このほか、2月中旬には「山のフォーラム」がオープンした。登山・山歩きの技術的な話題から、入門の手ほどきまでを広くカバーしている。

さて、各ボードの内容をご紹介します。

自然を讀え、楽しむ ナチュラルリストのサロン

<自然の森/FREE >

ハイキング、キャンプ、山歩き、それに日常のふとしたところで出会った自然について、何でも自由に書き込むボードだ。ネットワークカーが体験した野鳥、野草、キノコ、高山植物——要するに山河草木、鳥獣虫魚にまつわるものなら、何でもOK。ただ、このボードは、シグオベさんが「気軽なコミュニケーションを」と意図したのだろう、議論は一応お控えくださいということである（議論は「風の谷住民会議」が引き受けている）。

このボードのタイトル一覧を見ているだけで、地理的に南北に細長い日本の自然の移り変わりがわかってしまう。一部、タイトルを抜粋しておく（別表参照）。

メッセージの中身をちょっとのぞいてみると、くくスカラベさんが、なんきんはぜの紅葉について、次のようなメッセージをあげている。

★近くなんきんはぜの並木の紅葉が盛りで今きれいです。1本1本紅葉する色が微妙に違うので、まるで、印象派の絵のようです。福岡には、なんきんはぜが割合多く、小学校の運動場の周りにも植えられていました。この木は、全国的に分布しているのでしょうか？ 冬には、実が割れて、真白な花が咲いたようになります。★

すると早速、Yoshiokaさんが、なんきんはぜの詳しい情報をあげてくる。中国原産で、太古の日本にはあったらしいが、現在は帰化植物として九州地方に野生化している以外は、栽培植物だということ。さらになんきんはぜには毒があることなど。また、CATさんが、ななかまどの実をとってきて、ホワイトリカーに漬けた話をアップする。ここから、お酒の話へ飛び、BINさんがこんなことをいう。

★ところで「ギンナン酒」というのはどうでしょう？ 飲み

大自然 & 動植物のメニュー

1. このSIGについて

2. 電子メール

3. フォーラム

1. 自然の森/FREE

2. 風の谷住民会議

3. ダーウィン図書館

4. 大自然絵巻

5. バードウォッチング

4. ライブラリ

1. 説明

2. -

3. フォーラムダイジェスト

5. -

6. OLT (*)

7. -

E. コーナー終了

ながらギンナンを「つまみ」にする。もっといいのは「マタタビ酒」。これなら「とら」になる前に、フーウニャフニャ!

(^_^) ★

ふふ。次にOWLさんが、果実酒の作り方をアップしてくれる。

★私は今年、春先から初夏の頃、近所をチャリンコバイクで探し回り、何種類かの果実酒をつくってみました。

桑酒：これは最高。赤紫色のきれいな色で、味も高級品。桑(山桑)はちょっと捜せばたくさんあるんですね。ただ、木によって実の良し悪しの差が大きいようです。

山桜酒：せいぜい1cmほどのサクランボで、洗くてとても食べられません。果実酒用ブランデーに漬けたら、これもGoodでした。私の住んでいる団地の公園でいっぱい採れます。木

莓酒：モミジキイチゴという黄色の木莓ですが、これははつきりって、上の2つに比べマイチでした。生食の方がよかったです。

木の実採取にあたっては、ムシペールなどを必ず持っていき、鳥に全部食べられないうちに採る、といった注意が必要なようです。えー、色々ありますので、私はあと半年くらいは飲めそうです。★

また、こうちゃんが、別の話題を提供する。

★きょう(11/24)、久しぶりに近くの山へ行ってきました。もうひとつ、きょうは二歳になる息子が初めて登山をした日でもあります(だから、そんな大げさな登山じゃないんですけどね)。登山口から頂上(799m)まで、標高差250mくらいを

ゆっくりと登りました。ちょうど冬型の気圧配置が強まった日で、木枯しはびゅんびゅん吹くし、ときおり雪は降るし。息子がいやがるんじゃないかな、と思ったんだけど、元気にはしゃいで頂上まで自力で登ってくれました。…感動!

頂上で昼食をとってしばらくすると、何と息子が、うんこよ! というので、しかたなしに野糞をさせ、パンツとズボンをはきかえさせよう…と思うと、寒いよー! おうち帰ろー! と、わんわん泣きだすし…。もう大変! そりゃ、だれだって小雪の中でおしり丸だしじゃ寒いですよ。それでも何とかおさまって、帰りは半分だっこしての下山となりました。

今日は、はじめてゆっくり、父子の対話ができたような気がしました。★

この、ほのぼのとしたメッセージに、BINさんは、

★こうちゃんさん、息子の初登山、いいですね。二歳にしてキジ撃ち、楽しみですねー。父子の対話、一番いいですねー。

息子によろしく。いつか山で会おう(^_^)★

と、これまた暖かいレスポンス。ここは、こんな暖かいメッセージにあふれた楽しいボードである。

“自然と人間”を追究する シビアな議論も行われる

<風の谷住民会議>

たとえば、佐藤さんが、尾瀬が原の自然について、周囲の山小屋の浄化槽から出る排水が原因で、尾瀬の植物が巨大化した話をアップする。そこからまた、入山料、入山規制にも話が及んでいく。——「真の自然保護とは何か」という、相当に難しい問題をめぐって、アホウドリさん、HAHAさん、もんださん、佐藤さんたちが、真剣な議論を展開する。



アップされていたQLD画像

自然の森/FREEのタイトル一覧

485	88/11/ 8	紅葉ハイキング. 報告	
486	88/11/ 8	ツグミはもう来ましたか?	OWL
497	88/11/11	初霜>ムクドリ	なすび
496	88/11/11	うひゃへ、吹雪じゃっ。	CAT
508	88/11/13	猿梨を取りに行きました。	
550	88/11/23	柿の秋	
570	88/11/26	初雪は、いつごろかなあ?	田吾作
593	88/12/ 4	コタツで読書	
599	88/12/ 5	野鳥>タゲリとばったり会った	OWL
598	〇〇		

自然は、保護しなければならない。なぜ保護する必要があるのか。貴重だから。なぜ貴重なのか。自然は人間を含めた“生態系”であるから。つまり、自然破壊は人間の生存をも脅かすものだから。もんださんは、ここを鋭く分析する。そのもんださんのメッセージを次に示して、ここがいかに興味深くかつ真剣な自然論が展開されているボードであるかの紹介とした。★(自然保護の考え方の)一つは、自然の過度の破壊は結局、文明に不利益をもたらすという立場にたった考えでしょう。他方は、自然はそれ自体に存在価値があり、ありのままの自然に文明の影響を与えることは罪悪であるという絶対的な考え方で。「美しい自然を守ろう」「自然災害を防ごう」というのは前者の考えで、「自然は自然のままにしよう」というのは後者の考えになるでしょう。後者を支持するなら、自然は人間の所有物ではありません。はるかに多くの住人の住居でもあります。文明や人間が彼らにとって大きな迷惑なら、いっそないほうがいいかもしれません。「美しいから守ろう」「災害を防ぐために守ろう」だけでは、「資源として不足すると困るから守ろう」というのと、根は一つだともいえます。

しかし、前者にも理があります。自然を美しいと感じられるのも人間のもつ美德ですから、むげに否定もできないでしょう。また、まったく「あるがままに」というのは不可能です。まず資源を利用しないと人間が生きていけませんし、災害など実害が出るのは困ります。ある一部から文明を駆逐しても、地球上に文明がある限り、人間抜き自然状態に戻す(?)ことはできませんし、人間も地球の住人です。

さて、ではどちらに分があるのでしょうか。私は答えが出せませんでした。私は、基本的には文明を否定しません(パソ通をやって、ゴアの雨具を持っててなんで否定ができようか!)。結局、文明(人手)の介入はやむをえないが、不必要な破壊は極力おさえ、なるべく手つかずにする。関わってしまったら有効に利用し、影響を局限するよう、あとしまつに努力する。などという日和見な結論しか出せませんでした。自然に手を加える能力をもった以上、それを適度に(とはいっても、結局文明に都合よくならざるをえないでしょう)制御する責

任がある。それが自然保護である。というところでしょうか…(やめときやよかった)。

そういう「文明人」としては、真の意味で自然に帰るとか、一体になるなどは無理だと思います。ただ、都会人が山歩きなどで自然と関わるのは、「必要」なものうちに入っています。わずかでも、なるべく自然とじかに触れてみれば、反対に人間の弱さ、文明の問題点、ありがたみなどもわかってくるでしょう(希望的観測)。自然の豊かさを知ることも大切ですが(アンさんの言葉や、葉のコマーシャルではないけれど)、「自然のばか力」を体験することは必要だと思います。山でひどく降られると、「屋根というのはなんと偉大な発明だろう」と思いますから。★

貴重な資料や画像のボード 新スタートのボードも

<ダーウィン図書館>

ボードの再編成で、ここは模様替えになっている。ただ、今は画像のファイルが置いてあり、QLDを使って、「アサギマダラの吸蜜」「ウラナミシジミの交尾」「五竜岳」「五竜岳山頂」などの画像と、「あひる家族のスキー物語」「東京の中小河川」などの連載が納められている。将来は、画像は、「4.大自然絵巻」へと移転して、ここは純粋な長編、連載図書館になるはずだ。

<大自然絵巻><バードウォッチング>

このボードは新設されたばかりなので、この原稿を書いている現時点では、まだご紹介するような内容はあまりない。しかし、両方のボードとも、このSIGにはなくてはならないボードになるはずだ。今後が楽しみである。

なお、QLD画像だが、見るほうはソフト的にも整備されているが、アップロードとなるとまだ一般のネットワーカーには難しいところがあるようだ。この点については、「このSIGについて」の「2.お知らせ」で、きん太さんが協力を申し出てくれている。

<ライブラリ>

そもそもこのSIGは、「動物ランド」というSIGの「VAN自然の森」というボードが母胎になってできたもの。そこで、このライブラリーには、当時の貴重なメッセージが圧縮されて納めてある。圧縮の労は、シグオベさんの努力のたまもの、でもある。

(高木 寛)